

現場で使える 実務ガイド

5領域プログラムの 作り方

ROOTS

児発・放デイの運営ソフト | 株式会社INU
rootshub.jp



5領域は、本人支援を総合的に捉えるための共通の視点です

すべてを同じ分量で実施するのではなく、アセスメントで全体を把握し、本人・家族のニーズに応じて重点を置きます。

領域	主に捉えること
健康・生活	健康状態、食事、睡眠、排泄、清潔、着替えなどの生活習慣
運動・感覚	姿勢、粗大運動、微細運動、感覚調整、感覚過敏への配慮
認知・行動	注意、記憶、概念形成、見通し、問題解決、行動調整
言語・コミュニケーション	ことばの理解・表出、非言語表現、AAC、会話
人間関係・社会性	愛着、対人関係、集団参加、ルール、自己・他者理解

活動は複数領域にまたがります。主なねらいを一つ決め、関連する領域も補助的に整理すると、支援意図を共有しやすくなります。

5領域を踏まえた支援内容は、外部へ説明できる形に整えます

既存記事は、令和6年4月の報酬改定により、5領域を踏まえた総合的な支援内容を個別支援計画へ盛り込むことが基本報酬の算定要件になったと説明しています。

WHAT

支援の全体像を示す

どの領域を、どのような活動と支援方法で扱うかを、保護者にも分かる言葉で整理します。

WHY

活動のねらいを示す

「楽しい活動」だけで終わらず、どの発達課題や生活上のニーズにつながるかを示します。

CHECK

現行案内を確認する

公表期限、様式、掲載先、届出、未公表時の取扱いは、指定権者の最新案内で確認します。

本資料の出所記事には、公表期限・指定様式・未公表時の取扱いの具体記載がありません。全国一律の運用として断定せず、所在自治体の案内で最終確認してください。

活動名からではなく、アセスメントと目標から逆算します

同じ活動でも、伸ばしたい力によって声かけ、難易度、記録する行動が変わります。

1 ニーズを把握

本人・保護者への聞き取りと行動観察から、生活上の困りごとや強みを整理します。

2 5領域で整理

関係する領域を確認し、重点領域と関連領域を決めます。

3 目標を具体化

どの場面で、どの行動を、どの程度できる状態を目指すかを言葉にします。

4 活動と支援を選ぶ

目標達成に合う活動、環境調整、声かけ、補助方法、難易度を設計します。

5 評価して見直す

頻度・回数・参加時間等を記録し、モニタリングで継続・修正を判断します。

一つの活動に「主なねらい」と「観察する行動」を置きます

記事掲載の活動例を、5領域へ対応させた例です。年齢・発達段階に合わせて補助あり／なし等の難易度を用意します。

領域	活動例	観察する行動の例
健康・生活	着替えの手順カード、食事前のメニュー写真	手順を見て進めた工程、試せた食材、必要な補助
運動・感覚	サーキット運動、新聞紙遊び、風船バレー	姿勢、両手協調、順序理解、感覚刺激への反応
認知・行動	スケジュールボード、タイマーを使う切り替え練習	予告後の移行、離席回数、課題達成率
言語・コミュニケーション	要求場面づくり、絵カード、会話・歌詞クイズ	自発的な要求、指示理解、会話の往復回数
人間関係・社会性	ボールの順番交代、ボードゲーム、SSTロールプレイ	待つ、依頼する、相手へ返す、集団へ参加する

運動・調理・外出等は、転倒、アレルギー、迷子等のリスクを事前に確認します。感覚刺激を伴う活動は、本人の反応と中止サインを共有します。

プログラムは、個別支援計画の目標を達成する手段として結びます

事業所の共通プログラムを、そのまま全員の目標にしません。児童ごとにねらい、支援方法、評価指標を変えます。



例:「サーキット運動をする」ではなく、「粗大運動の目標に対し週2回実施し、順序どおり進めた工程と必要な補助を記録する」まで対応づけます。

公表資料は、保護者が支援の考え方を理解できる一枚にします

法定の指定様式と断定せず、事業所の支援方針を説明する実務資料として、情報の対応関係を明確にします。

載せる内容の組み立て

- 事業所の支援方針と対象サービス
- 5領域それぞれの考え方と主な活動例
- 個別支援計画とのつなぎ方
- 年齢・発達段階・個別特性への配慮
- 安全管理と家庭・学校等との連携

公開前の確認

- 領域名と説明が統一されている
- 活動だけでなく「ねらい」が書かれている
- 特定の児童・家族を推測できる情報がない
- 実際の支援内容と公表資料が一致している
- 公表日・更新日・版を記録している

掲載先、提出や届出の可否、更新時期は指定権者の現行案内を確認し、公表したURL・日付・ファイル版を事業所内に残します。

よくある不備は「分類だけ・全員同じ・評価できない」の3点です

01

活動を5領域へ分けただけ

活動名の一覧だけでは支援意図が伝わりません。主なねらい、支援方法、観察する行動を添えます。

02

全員に同じ内容を当てる

本人・家族のニーズや発達段階を踏まえ、重点領域、難易度、補助方法を個別に調整します。

03

目標が測れない

「楽しく過ごす」等の抽象語を、参加時間、回数、頻度、必要な補助等へ置き換えます。

公表資料と個別支援計画、日々の支援記録が別々の言葉で書かれていると、支援のつながりを説明しにくくなります。用語と評価軸をそろえます。

ROOTSでは、計画・活動・記録・見直しを同じ整理軸で管理します

既存記事が示す「テンプレートの標準化」「日々の記録からの情報集約」「モニタリング期限管理」を、5領域の運用へつなげる考え方です。

STANDARDIZE

5領域の型をそろえる

領域、目標、活動、支援方法、評価指標の項目を統一し、職員ごとの書き方の差を減らします。

CONNECT

日々の記録と結ぶ

活動実績を個別支援計画の目標へ対応づけ、モニタリングで参照できる事実を蓄積します。

REVIEW

期限と版を追う

見直し時期、公表日、更新日、計画やプログラムの版を追える状態にします。

運用開始時は「誰が入力するか」「誰が内容を確認するか」「いつ公表版へ反映するか」まで役割を決めます。



5領域を、計画・活動・記録・公表の共通言語にする

本人・家族のニーズから重点領域と目標を決め、活動と支援方法を選び、観察できる事実を残す。そのつながりを保護者にも分かる形で公表し、見直しへ戻します。

設計

アセスメント → 目標 → 活動 → 評価の順で逆算する

個別化

同じ活動でも、ねらい・難易度・補助・評価指標を変える

公表

支援方針と実際の運用を一致させ、日付・版・掲載記録を残す

根拠: ROOTS「個別支援計画の書き方と5領域記入例」「児発・放デイの個別支援計画書き方完全ガイド」「児発・放デイで使える活動アイデア50選」。公表期限・様式・掲載先・届出等は指定権者の現行案内で最終確認してください。株式会社INU (ROOTS運営) は行政機関ではありません。